

毎年、趣向を変えて行っている「視覚に障がいのある方に向けたプログラム」。

過去のブログでもお話したように、視覚に障がいのある方と一緒に作品鑑賞をするのがこのプログラムの目的です。

通常は、作品について意見を交わしたりして作品理解を深めるのですが、今年度は手で触れる大型鑑賞グッズを特別に用意しました。

それがこの「足」です。自立します。ジョージ・シーガルの立体作品《ロバート&エセル・スカルの肖像》の構造を理解していただくために、実物と同じものを実際に作ってそれを触っていただく、という発想のもと生まれました。



↑ 今年の新作鑑賞グッズ「足」。



↑ ジョージ・シーガル 《ロバート&エセル・スカルの肖像》 1965年 愛知県美術館蔵

こちらの「足」を作ってくださったのは、東海地方で活躍中の若手芸術家、宇田ももさんです。モデルとなる人の足の周りに石膏をぺたぺたと貼り付けて、生乾きになったところで足を抜きます。今回はズボンが抜けないのでズボンごと切っていますが、シーガルの作品の場合も、衣服を石膏から抜いたものと石膏の中に残したものがあるそうです。



↑ 工程その1



↑ 工程その2

そういえば、当館の0学芸員も過去にシーガルの石膏彫刻を自分で試していますね。その時の様子は
こちら→[2010年12月3日のブログ記事](#)

10月13日と15日のプログラムに向けて、宇田さんはジョージ・シーガルの「足」だけではなく、ルー
チョ・フォンタナの作品の模型も作ってくださることになっています。
フォンタナ作品の切れ目部分に指を突っ込みたいという願望が、今、叶えられます・・・！

なお、宇田ももさんご本人の作品は、「秋の小旅行」（瀬戸市、銀座通商店街、末広商店街、11/10?11/20）や「ファンデナゴヤ ぶんのせんともものもの」（市民ギャラリー矢田、2012/1/12?22）でご覧いただけるそうです。こちらも楽しみ。

(F.N.)